

絵本 「葉っぱのフレディ」いのちの旅 1

定年時代 平成18年8月上旬号、
「葉っぱのフレディ(いのちの旅)」童話屋より

◇ 「葉っぱのフレディ」は1998年(平成10)に出版され、100万部のベストセラーとなった絵本です。聖路加病院の日野原さんが企画・原案を担当し舞台化され、話題を呼んでいます。絵本は米国の著名な哲学者レオ・パスカーリア博士が死と命について書いたもので、葉として生まれたフレディが輝かしい春と夏、紅葉の秋を体験し、冬がきて“そのとき”を迎え、枝を離れていくまでをシンプルに描いています。

◇ 人間の一生を四季の移ろいに例え、生きていくことの意味、命の循環を子供にも大人にも伝えられる本です。27ページにわたる美しい絵本の全文は以下の通りです。いのちと平和の大切さを、次世代に語り継ぎましょう。絵本に興味のある方は発行 童話屋 03-5376-6150 葉っぱのフレディーいのちの旅 1575円

春が過ぎて 夏が来ました。

葉っぱのフレディは、この春 大きな木の梢に近い太い枝に生まれました。そして夏にはもう 厚みのある 立派な体に成長しました。五つに分かれた葉の先は 力強くとがっています。

フレディは数えきれないほどの葉っぱに とりかこまれていました。はじめフレディは 葉っぱはどれも自分と同じ形をしていると思っていましたがやがて ひとつとして 同じ葉っぱはないことに 気がつきました。隣のアルフレッド 右側のベン すぐ上のクレアは女の子です。みんな春に生まれて一緒に大きくなりました。春風に誘われてくるくる踊る練習をしました。日光浴の時は じっとしているのが良いということも覚えめました。夕立がくると一斉に雨に体を洗ってもらいました。

フレディの親友は ダニエルです。だれよりも大きくて 昔からいるような顔をしています。考えることが好きで 物知りでした。ダニエルはフレディに 色々 教えてくれました。フレディが木の葉っぱだということ。木の根っこは地面の下にあって見えないけれど 四方に張っていて だから木は倒れないこと。目の下にある公園で おはようと挨拶にくるのは小鳥達であること。月や太陽や星が 秩序正しく空を回っていること。そしてめぐりめぐる季節のことなど みんなダニエルが教えてくれたことです。

フレディは「葉っぱに生まれて よかったな」と思うようになりました。友達は沢山いるし 見晴らしは良いし 枝はしなやかだし その上 風通しも日当たりも申し分なく お月さまは銀色の光で照らしてくれるからです。

夏になると フレディは 益々うれしくなりました。お日さまが早く昇って 遅く沈むので沢山遊べます。かんかん照りの暑さはなんて気持ちが良いのでしょうか。

夜になっても昼間の暑さが残っているのですから フレディは 気持ちがよくて夢をみている気分です。公園に木陰を求めて大勢の人がやってきました。ダニエルは立ち上がり「さあ体を寄せてみんなで陰をつくろう。」と呼びかけました。フレディはダニエルに尋ねました。「どうして そんなことをするの？」するとダニエルは「暑さから逃げ出してきた人間に 涼しい木陰を作ってあげると みんな 喜ぶんだよ。」と言いました。

ダニエルの言った通りでした。木陰にお爺さんやお婆さんが集まってきました。子供達も来ました。お弁当を広げる人もいます。フレディ達は葉っぱをそよがせて涼しい風を送ってあげました。「フレディ これも葉っぱの仕事なんだよ。」

ダニエルの話を聞いて フレディは益々 嬉しくなりました。老人達は木陰からでないで小聲で昔の思い出を話しているようです。子供達は木に穴をあけたり名前を彫ったり いたずらもするけど 笑ったり走ったり 生き生きしています。

けれど 楽しかった夏は駆け足で通りすぎていきました。たちまち秋になり 10月の終わりのある晩 突然 寒さが襲ってきました。フレディも仲間のアルフレッドもベンもクレアもふるふる震えました。皆の顔に白く冷たい粉のようなものがつきました。朝になると白い粉はとけて雫がキラキラ光りました。「霜がきたのだ。」とダニエルが言いました。もうすぐ冬になる知らせだそうです。

緑の葉っぱたちは一気に紅葉しました。公園はまるごと虹になったような美しさです。アルフレッドは濃い黄色に ベンは明るい黄色に クレアは燃えるような赤 ダニエルは深い紫色に そしてフレディは赤と青と金色の三色に変わりました。なんて みごとな紅葉でしょう。

一緒に生まれた同じ木の同じ枝の どれも同じ葉っぱなのに どうして違う色になるのか フレディには 不思議でした。「それはねー」とダニエルが言いました。「生まれた時は同じ色でも いる場所が違えば 太陽に向く角度が違う。風の通り具合もちがう。月の光 星明かり一日の気温 なにひとつ同じ経験はないんだ。だから 紅葉するときには みんな違う色になってしまうのさ。」

風が変わったのは そのあとでした。夏の間 笑いながら一緒に踊ってくれた風が別人のように顔をこわばらせて葉っぱ達に襲いかかってきたのです。葉っぱはこらえきらずに吹きとばされ 巻き上げられ 次々と落ちていきました。

「さむいよう」「こわいよう」 葉っぱ達はおびえました。そこへ 風のうなり声の中からダニエルの声が とぎれ とぎれに聞こえてきました。